

和装の鉄舟像鎮座

劍、書、禪の道を極めたことと知られ、明治天皇の侍従も務めた山岡鉄舟の銅像が静岡市清水区村松の鉄舟禅寺の境内に建立され、二日、像に魂を入れる「慶讃(さん)法要」が同寺で営まれた。鉄舟の像は静岡・山岡鉄舟会の会長で、同寺の檀家(だんか)でもある松本検さんが寄進した。

銅像は鉄舟が和服姿で正座



制作された銅像
静岡市清水区の鉄舟禅寺

清水区・鉄舟禅寺 檀家松本さん寄進 晩年の写真基に制作

した姿。晩年の鉄舟の写真を基に造られた。本体部分が一・五尺、台座まで含めると高さ約二・五尺。台座は明治十六年、鉄舟が同寺を建立する際、清水次郎長が寄進した礎石が使われた。台座には鉄舟が好んで書いた「信」の文字や、西郷隆盛と会見して戸城の無血開城に道を開いた鉄舟の功績なども記されている。

小学校の時から鉄舟に心酔しているという松本さんが鉄舟没後百二十年を迎えた昨年、像を造ることを決め、富山県内の彫刻家などに制作を依頼した。

法要には鉄舟会のメンバーや檀家など約百人が出席した。松本さんがあいさつし、除幕した後、香村俊明住職が経を唱え、銅像に入魂した。